

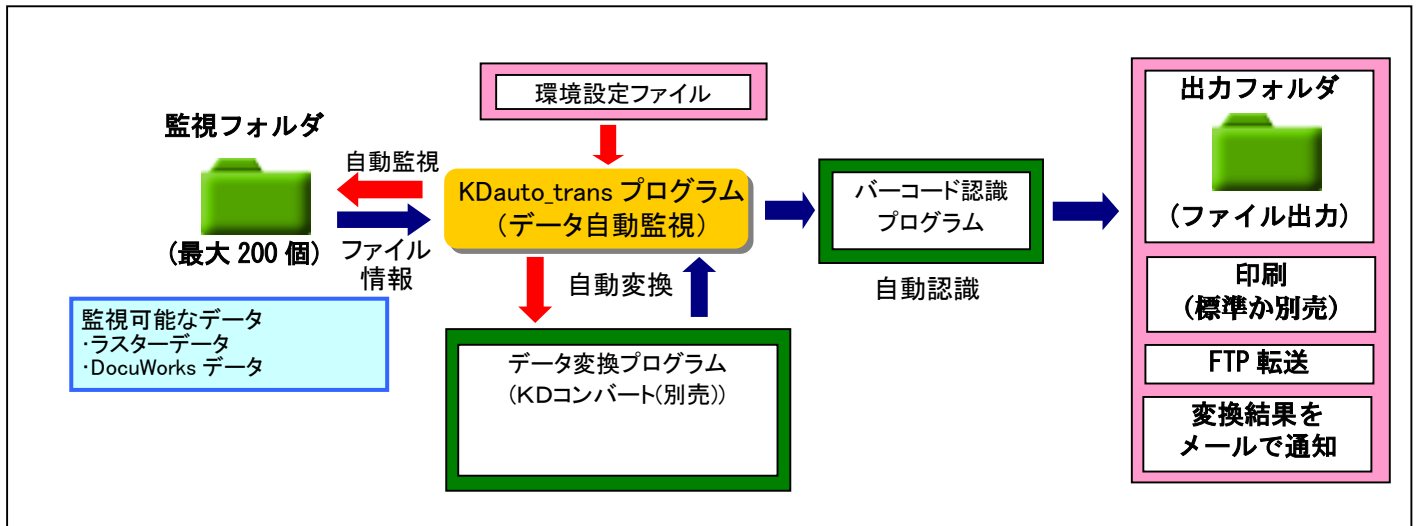
監視付き変換ソフト

KDauto_transバーコード自動認識版 for SharePoint



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>



【概要】

KDauto_trans バーコード自動認識版 for SharePoint は KDauto_trans バーコード自動認識版の機能に SharePoint と WebDAV への出力を追加した製品になります。

変換により作成されたファイルは Windows 配下のフォルダへ出力か SharePoint 上のドキュメントライブラリへ出力か WebDAV サーバー上のフォルダへ出力かを選択することができます。

【特長】

1. ラスターファイル、DocuWorks ファイル、ラスターデータ PDF ファイルをバーコード自動認識することが可能です。DocuWorks ファイルをバーコード自動認識するには FUJI XEROX 社製品の DocuWorks4.1 以降がインストールされている必要があります。自動認識可能なバーコードの種類は次の通りです。

バーコードタイプ	内容
JAN13 EAN13	JAN および EAN コードのうち 13 桁のもの。
JAN8 EAN8	JAN および EAN コードのうち 8 桁のもの。
ITF	IFT。桁数は任意。
NW-7 CODABAR	NW-7。桁数は任意。
CODE39	Code39。桁数は任意。
CODE128	Code128。桁数は任意。
GS1-128 (UCC/EAN128)	Code128 のうち GS1-128 (UCC/EAN128) 規格に適合するもの。
郵便カスタマ	郵便カスタマバーコード
QR	QR_CODE。型番は任意。
GS1 DataBar (RSS)	GS1 DataBar (RSS)。バージョンは任意。
PDF417	PDF417
GS1 合成シンボル	GS1 合成シンボル (EAN, UCC 合成シンボル) 合成コンポーネントタイプ、リニアコンポーネントタイプは任意。
白紙ページ	白紙ページ

2. バーコード自動認識はページ全体またはページの一部（複数指定不可）から行うことが可能です。
3. バーコード自動認識を行って取得したバーコードの内容を出力ファイル名にすることが可能です。
4. バーコード自動認識を行って取得したバーコードの情報を GSV ファイルに出力することが可能です。

5. 指定された出力先にバーコードの内容でサブフォルダを作成してそこに出力することが可能です。
6. 複数のページにバーコードが貼り付けてあるファイルをバーコード自動認識して、バーコードの貼り付けてあるページ毎に分割して出力することが可能です。(詳細はページ分割の参照をお願いします)
7. バーコード自動認識を行って取得したバーコードの内容と事前に定義しておいたキーワードが一致するファイルをキーワード毎に別々のフォルダへ出力することが可能です。出力先は任意に指定したフォルダか出力フォルダの直下にキーワード名でサブフォルダを作成してそこへ出力します。
8. バーコード自動認識後にラスタファイル、DocuWorks ファイル、ラスタデータ PDF ファイルを加工することが可能です。
9. 監視ディレクトリ毎にバーコード自動認識の認識方法を指定することが可能です。
10. 監視ディレクトリを最大 200 個まで指定できます。
監視ディレクトリ内のファイルは日付の古い順かファイル名の昇順でピックアップされます。
11. 監視ディレクトリはローカルフォルダと共有フォルダのどちらでも指定することができます。
共有フォルダは読み書きが許可されている必要があります。
12. 監視ディレクトリ毎に監視開始時間、監視終了時間、監視有効、監視無効の設定が可能です。
監視ディレクトリの監視有効、監視無効の設定は KDauto_trans 実行中でも変更することが可能です。(実行中に監視無効に変更した場合は、変更前にピックアップされていたファイルについては変換処理を行います)。
13. 監視ディレクトリ以下のディレクトリにあるファイル进行处理することが可能です。処理されたファイルは指定された出力先に、監視ディレクトリ以下のディレクトリ構成と同じディレクトリ構成を作成してそこに出力します。
14. 監視ディレクトリ毎に任意の出力先を指定することができます。
15. 出力先は Windows 配下のフォルダ (ローカルフォルダと共有フォルダのどちらでも可) か SharePoint 上のドキュメントライブラリか WebDAV サーバー上のフォルダかを指定することが可能です。
共有フォルダは読み書きが許可されている必要があります。
SharePoint と WebDAV はログインするためのユーザー名とパスワードが必要となります。
16. 処理後の出力ファイル名を指定することができます。監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名+指定拡張子、監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名+日付+指定拡張子、日付+指定拡張子の 3 種類から選択できます。
17. 変換処理の履歴を保存しておく履歴ファイルの生成が出来ます。実行時間や変換結果などの履歴情報の確認ができます。XML フォーマットの履歴ファイルを作成することもできます。
18. 変換処理の内容をメールで送信することも可能です。変換処理が NG の時にのみメールを送信したり、常に結果をメール送信したりすることができます。変換処理が NG の場合は変換元ファイルをメールに添付することができます。
19. 処理後の出力ファイルを印刷することが可能です。プリンタドライバ経由 (データ変換は行わない) で印刷します。
処理後の出力ファイルが出力先プリンタで出力可能なフォーマットになっている必要があります。
弊社の印刷関連製品を使用して印刷することも可能です (例えば KDprintout for driver など。印刷関連製品を組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせ下さい (別売))。
弊社以外の印刷関連製品を使用して印刷することも可能です (例えば lpr.exe など)。使用できる印刷プログラムはコマンドプロンプト上からコマンドラインで実行可能なこと、コマンドラインの形式が「出力プログラム名 オプション 出力ファイル名」であることが条件となります。画面操作が必要なプログラムは使用できません。
20. 弊社の KD コンバートシリーズ (別売) を使用してデータ変換を自動処理することが可能です。殆どの KD コンバートシリーズが組み合わせ可能ですが、組み合わせることが出来ないものもあります。
(購入を考えている KD コンバートシリーズまたは購入済みの KD コンバートシリーズが組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせ下さい)
変換結果ファイルがラスタファイルまたは DocuWorks ファイルの場合は、そのファイルをバーコード自動認識することが可能です。
21. 弊社の KD コンバートシリーズ (別売) を使用して複数のフォーマットからなるファイルを特定のフォーマットのファイルに纏めて出力することができます。
(購入を考えている KD コンバートシリーズまたは購入済みの KD コンバートシリーズが組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせ下さい)
纏めたファイルがラスタファイルまたは DocuWorks ファイルの場合は、そのファイルをバーコード自動認識することが可能です。
22. 弊社の KD コンバートシリーズ (別売) を使用して対になる 2 つの新旧ファイルを比較して比較結果を出力することが可能です。比較可能 KD コンバートシリーズは HPMGHP、PDFMGPDF、XDWMGXDW です。
23. 弊社の KD コンバートシリーズ (別売) を使用して複数の図面サイズのファイルを指定図面サイズにレイアウトして出力することが可能です。レイアウト可能 KD コンバートシリーズは HPLAYHP、RSCMP3RS です。
24. 弊社の KD コンバートシリーズ (別売) を使用して大判サイズのデータを定型または任意のサイズに分割することが可能です。分割可能 KD コンバートシリーズは RSDV3RS、RSDV4RS、RSDV3PST です。
25. 弊社の KD コンバートシリーズ (別売) を使用して変換元データの情報を変換と同時に出力することが可能です。情報出力可能 KD コンバートシリーズはラスタ変換プログラム (RS**), DICOM 変換プログラム (DCM**) です。
ラスタ変換プログラムでは Exif 情報を、DICOM 変換プログラムではタグ情報を出力します。変換元データにこれらの情報が無い場合は変換エラーとなります。
26. 弊社の KD コンバートシリーズ (別売) で使用する設定ファイルを変換ファイルに合わせて自動的に選択して変換することが可能です。変換前に任意に指定したディレクトリに、変換ファイルと同名の設定ファイル (拡張子は任意) を作成しておく必要があります。設定ファイルが存在しない場合は変換エラーとなります。

27. 監視ディレクトリにフォーマットの違うファイルがあってもフォーマットを自動認識することができます。フォーマット認識はファイルの拡張子で行います。拡張子はフォーマット毎に最大8個まで指定できます。フォーマット毎に使用するデータ変換プログラムと出力先のディレクトリを指定することができます。
28. フォーマットの自動認識(25.)を行う場合に、指定外の拡張子を持つファイルをエラーにするか無視するかを選択できます。無視にした場合は、そのファイルは監視ディレクトリから削除されません。
29. KDauto_trans バーコード自動認識版 for SharePoint の環境設定は GUI 画面から設定を行います。

KD コンバートシリーズとの組み合わせ例

1. KDraster コンバート (ベクター/ラスター) を購入して組み合わせることによって DXF/DWG/HP-GL/OFI 等のファイルを TIFF 等のラスターファイルに変換し、そのファイルをバーコード自動認識することが可能になります。
2. KDraster コンバート (ラスター/ラスター) を購入して組み合わせることによって TIFF, JPEG, BITMAP 等のラスターファイルを TIFF, JPEG, BITMAP 等のファイルに変換し、そのファイルをバーコード自動認識することが可能になります。
3. DTP と一体型データ変換ソフトを購入して組み合わせることによって WORD/EXCEL/PowerPoint/PDF 等の DTP ファイルを TIFF に変換し、そのファイルをバーコード自動認識することや自動印刷が可能になります。(DTP ファイルを印刷可能なソフトが別途必要になります。WORD なら Microsoft Office、PDF なら Adobe Acrobat が必要になります)
4. KDprintout for driver (プリンタドライバ経由の印刷) を購入して組み合わせることによって、DXF/DWG/HP-GL/HP-GL2/OFI/Raster ファイルを任意のプリンタへ印刷することが可能になります。

【機能一覧】

KDauto_trans バーコード自動認識版 for SharePoint の機能一覧です。

機能	OS
	Windows
バーコード自動認識(※1)	○
監視ディレクトリ最大数	200 個
SharePoint/WebDAV 出力	○
監視ディレクトリの開始終了	○
監視ディレクトリの有効無効	○
階層処理	○
出力ファイル名(※2)	○
履歴の作成	○
メール送信	○
プリントマネージャで印刷(※3)	○
任意プログラムで印刷(※4)	○
KD コンバートシリーズで変換(※4)	○
複数ファイル処理 (※4)	○
比較処理(※5)	○
レイアウト処理(※6)	○
分割処理(※7)	○
ファイル情報出力(※8)	○
FTP 転送	○
環境設定を GUI で行う	○

※1：バーコード自動認識が可能なファイルはラスターファイル、DocuWorks ファイル、ラスターデータ PDF ファイルになります。それ以外のファイルは KD コンバートシリーズなどを使用してラスターファイルまたは DocuWorks ファイルに変換することでバーコード自動認識が可能となります。

DocuWorks ファイルをバーコード自動認識するには FUJI XEROX 社製品の DocuWorks4.1 以降がインストールされている必要があります。

※2：監視ディレクトリにコピーされたファイル名＋指定拡張子、監視ディレクトリにコピーされたファイル名＋日付＋指定拡張子、日付＋指定拡張子の3種類が指定できます。

※3：KD コンバートシリーズの変換処理で出力するプリンタが印刷可能なフォーマットに変換する必要があります。

※4：別途 KD コンバートシリーズを購入する必要があります。

※5：HP-GL 同士、HP-GL/2 同士、PDF 同士、DocuWorks 同士のファイルが比較可能です。

別途 HPMGHP (HP-GL 同士、HP-GL/2 同士)、PDFMGPDF (PDF 同士)、XDWMGXDW (DocuWorks 同士) を購入する必要があります。

※6：HP-GL、HP-GL/2、ラスターファイルがレイアウト可能です。

別途 HPLAYHP (HP-GL、HP-GL/2)、RSCMP3RS (ラスター) を購入する必要があります。

※7：ラスターファイルが分割可能です。

別途 RSDV3RS、RSDV4RS、RSDV3PST を購入する必要があります。

※8：ラスター、DICOM ファイルが可能です。

別途ラスター変換プログラム (RS**)、DICOM 変換プログラム (DCM**) を購入する必要があります。

【ページ分割】

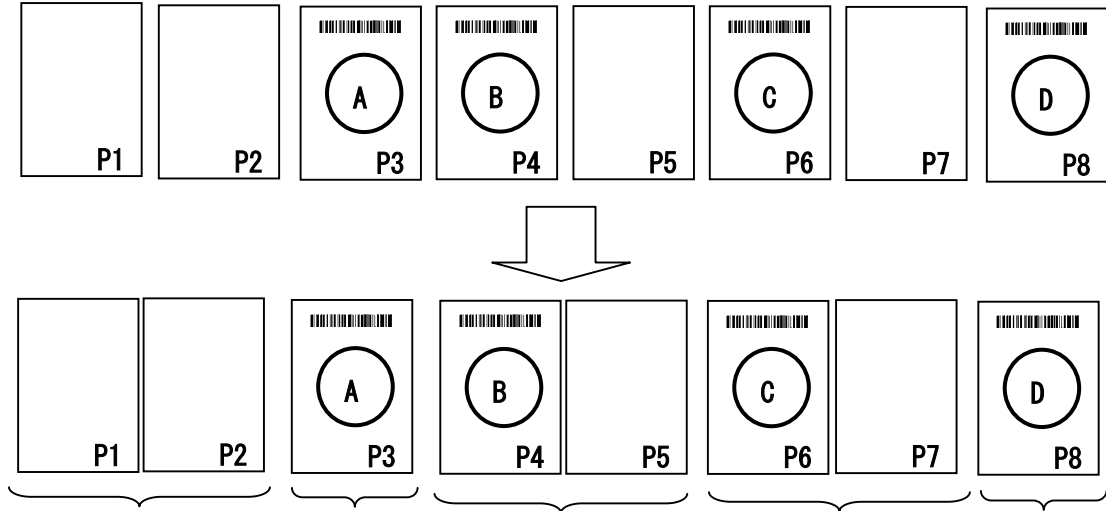
バーコードのあるページ毎に分割して出力を行います。

バーコードページ毎に分割して出力する、バーコードの内容単位に分割することが可能です。

- ・バーコードのあるページで分割（削除なし）

バーコードのあるページでファイルを分割して出力します。

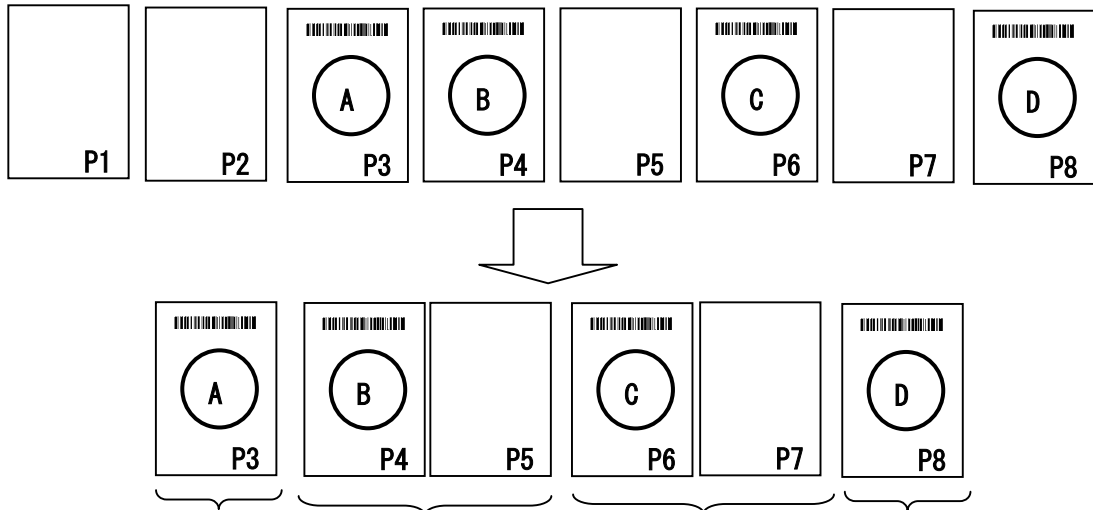
先頭ページにバーコードのあるページが無い場合は、先頭ページから最初のバーコードのあるページまでを分割して出力します。



- ・バーコードのあるページで分割（先頭ページにバーコードが無い場合は削除）

バーコードのあるページでファイルを分割して出力します。

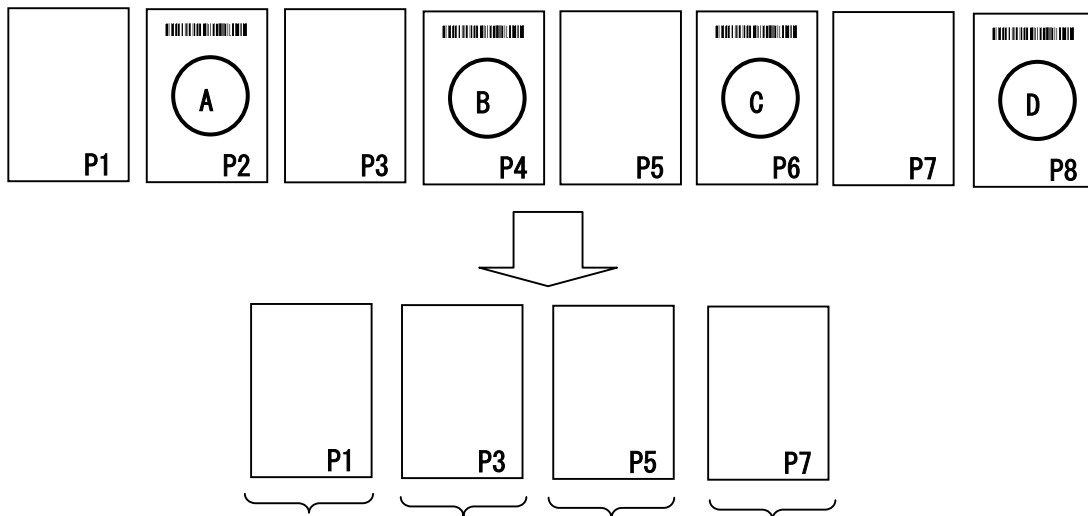
先頭ページにバーコードのあるページが無い場合は、先頭ページから最初のバーコードのあるページまでを削除して出力しません。



・バーコードのあるページで分割（バーコードのあるページを削除）

バーコードのあるページでファイルの分割を行い、その後でバーコードのあるページを削除して出力します。分割後にバーコードのあるページが必要ない場合に使用できます。

先頭ページにバーコードのあるページが無い場合は、先頭ページから最初のバーコードのあるページまでを分割して出力します。

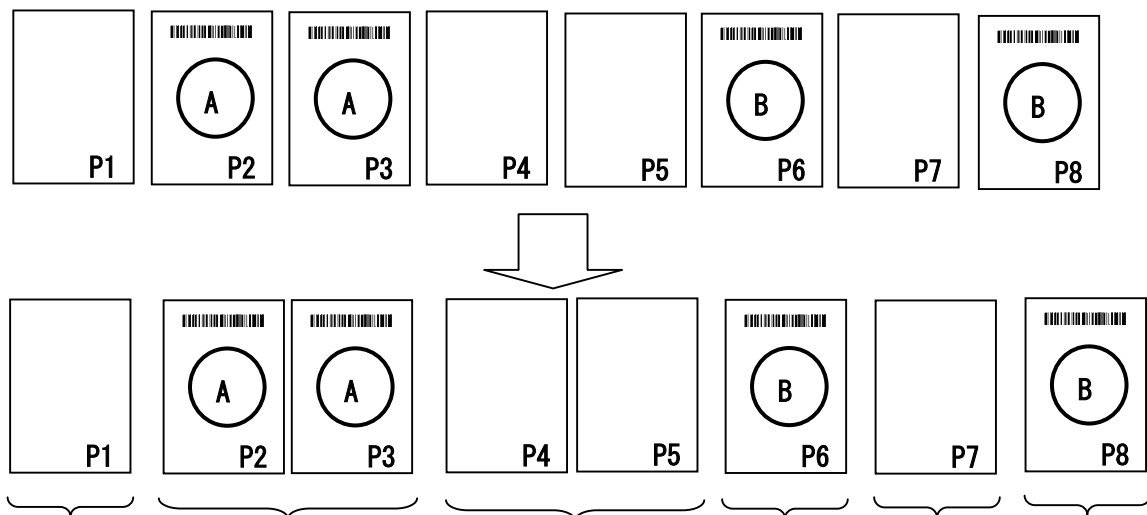


・バーコードの内容で分割（削除なし）

連続する同じバーコードのあるページでファイルを分割して出力します。

同じバーコードでも連続しない場合は別々に分割されます。

先頭ページにバーコードのあるページが無い場合は、先頭ページから最初のバーコードのあるページまでを分割して出力します。

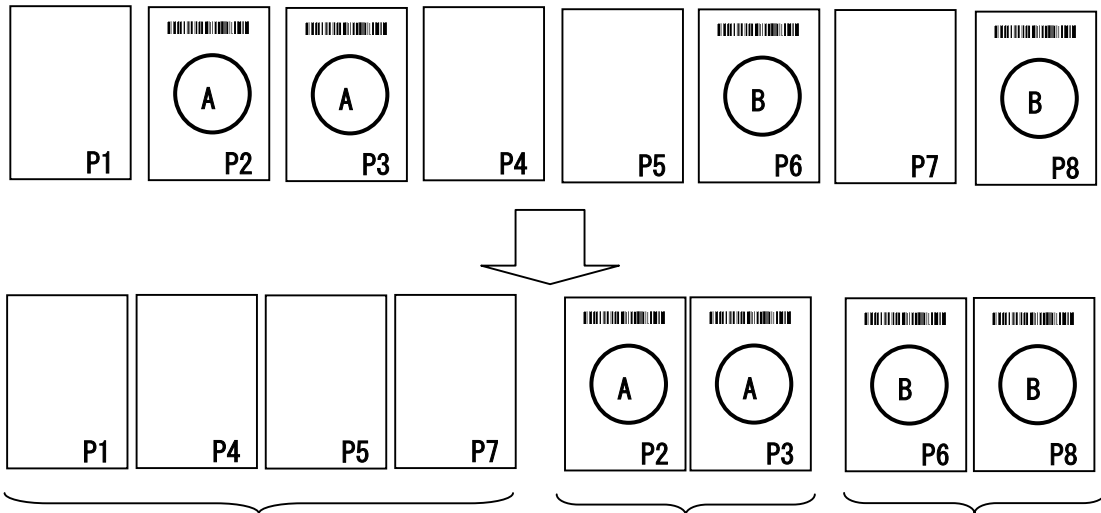


※バーコードの内容で分割処理にも「先頭ページにバーコードが無い場合は削除」と「バーコードのあるページを削除」処理があります。

・バーコードの内容で分割（順不同、削除なし）

同じバーコードのあるページを纏めて出力します。

バーコードの無いページは一つに纏められて出力します。



※バーコードの内容で分割処理にも「先頭ページにバーコードが無い場合は削除」と「バーコードのあるページを削除」処理があります。

【環境設定】

KDauto_trans バーコード自動認識版 for SharePoint の動作環境の設定は GUI 画面から行います。

(環境設定ファイルを直接編集することが可能ですが、設定内容の入力ミスを少なくするためにも極力 GUI 画面から設定を行って下さい)

・環境設定

KDauto_trans バーコード自動認識版 for SharePoint のインストールフォルダにある「ParaSet.exe」を実行します。

監視ディレクトリ一覧
監視ディレクトリの一覧が表示されます。
監視ディレクトリの有効・無効、監視ディレクトリ番号、監視ディレクトリ名の順番で表示されます。

追加ボタン
新規に設定を追加する。
クリックすると「環境パラメータ設定」ダイアログが表示されます。

データタイプ分岐
変換プログラムや出力ディレクトリを設定します。
クリックすると「データタイプパラメータ設定」ダイアログが表示されます。

監視ディレクトリ
変換元ファイルがコピーされるディレクトリを設定します。
処理終了後、変換元ファイルは削除されます。
入力データ移動先
処理が終了した後に変換元ファイルを保存するディレクトリを設定します。
エラーデータ移動先
変換処理がエラーになった場合に、変換元ファイルを保存するディレクトリを設定します。

入力データ移動先とエラーデータ移動先の設定は任意です。設定しなくても構いません。その場合は、変換元ファイルは保存しません。

バーコード解析設定
バーコード自動認識を行う場合はチェックします。
詳細ボタン
バーコード自動認識の設定を行います。
クリックすると「バーコード自動認識詳細設定」ダイアログが表示されます。

履歴モード
履歴ファイルを作成して処理の結果を記述します。
設定は任意です。設定しなくても構いません。その場合は、履歴ファイルを作成しません。

データマイクパラメータ設定

データマイク番号: 0 データフォーマット名称: [] OK キャンセル ヘルプ

出力関連

出力タイプ: フォルダ出力 プロキシ設定

ユーザー名: [] フィールド設定

パスワード: []

出力先: C:\KDauto_trans\outfl 参照...

出力拡張子: tif

変換関連

前処理: [] 参照...

KDコンバート: C:\h23rs\h23rs.exe -AG -U"C:\h23rs\hp2_1" 参照...

後処理: [] 参照...

ラスター分割処理

情報ファイル出力

シングルページ番号の区切りが[-]のファイル

指示ファイルの使用

オプション: []

格納ディレクトリ: []

拡張子: []

出力タイプ
出力先の出力タイプを選択します。
SharePoint 出力または WebDAV 出力
を選択した場合はユーザー名、パス
ワード、プロキシ設定、フィールド
設定が設定可能になります。
※WebDAV 出力はフィールド設定を行
えません。

出力先
出力タイプで選択された形式で変換
結果ファイルを出力する出力先を設
定します。

出力拡張子
変換結果ファイルの拡張子を
設定します。

KD コンバート
変換を行う KD コンバートシリーズのコマンドラインを設定します。
KD コンバートシリーズの実行 EXE を最初に設定し、その後に変換オ
プションを設定します。
KD コンバートシリーズには変換設定方法を記述した入力属性ファイル
と出力属性ファイルがありますので、必ず[-U]と[-Z]オプションで
設定します。その他の変換オプションをその後に続けます。変換オプ
ションの内容は使用する KD コンバートによって異なりますので、詳
しくは KD コンバートの説明を参照して下さい。

バーコード自動認識詳細設定

基本設定 | 認識詳細設定 | 出力設定 | バーコード情報ファイル | 変換設定 | グループ分け設定

読み取るバーコードタイプ
自動認識を行うバーコードを選択します。
複数選択可能です。

JAN13/EAN13 JAN8/EAN8 CODE39

CODE128 NW-7 ITF

GS1-128(UCC/EAN128) 郵便番号7 QR

GS1 DataBar(RSS) PDF417 GS1合成ソール

白紙

PDFファイルの処理
PDF ファイルからイメージを抽出する場
合の処理方法を設定します。

標準

速度優先

読み取り領域(mm)指定
自動認識を行う領域を設定します。
データの左上を原点として自動認識を行
う開始位置と幅高さを設定します。

開始位置X: 0.00 幅: 0.00

開始位置Y: 0.00 高: 0.00

読み取り領域(mm)指定
自動認識を行う領域を設定します。
データの左上を原点として自動認識を行
う開始位置と幅高さを設定します。

バーコード読み取り方向
自動認識を行うバーコードの向きを設定
します。
複数選択可能です。

0度 90度 180度 270度

バーコード読み取り方向
自動認識を行うバーコードの向きを設定
します。
複数選択可能です。

バーコード読み取り順位方向
自動認識を行う順位を設定します。
同一ページに複数のバーコードがある場
合に有効です。

指定無し 上 下 左 右

バーコードの桁数の範囲

上限: 0 下限: 0

バーコードの桁数と文字種
バーコード認識時の誤認識を防ぐために
バーコードの桁数と文字毎の種類を設定
します。

バーコードの桁数の文字種: []

バーコードエラー名称: []

バーコード無しエラー名称: NODATA

OK キャンセル ヘルプ

読み取るバーコードタイプ
自動認識を行うバーコードを選択します。
複数選択可能です。

PDF ファイルの処理
PDF ファイルからイメージを抽出する場
合の処理方法を設定します。

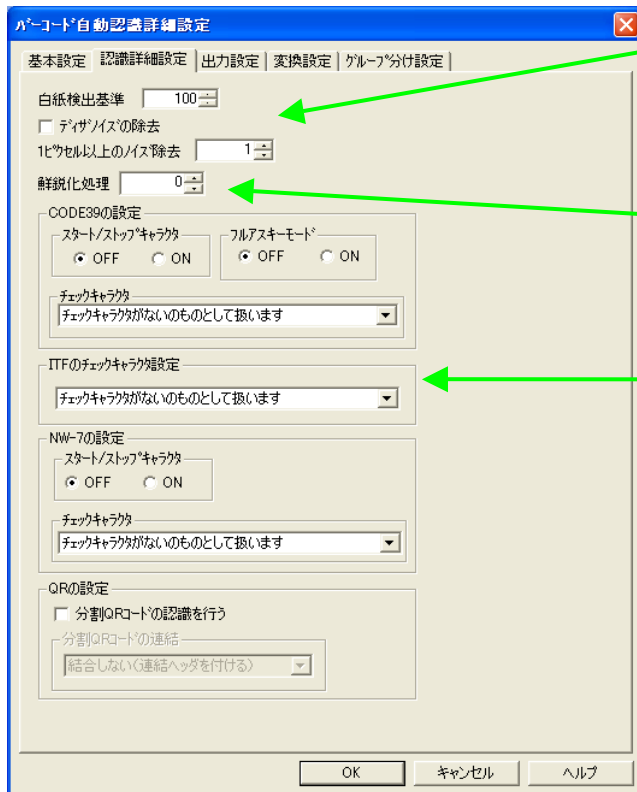
読み取り領域(mm)指定
自動認識を行う領域を設定します。
データの左上を原点として自動認識を行
う開始位置と幅高さを設定します。

バーコード読み取り方向
自動認識を行うバーコードの向きを設定
します。
複数選択可能です。

バーコード読み取り順位方向
自動認識を行う順位を設定します。
同一ページに複数のバーコードがある場
合に有効です。

バーコードの桁数と文字種
バーコード認識時の誤認識を防ぐために
バーコードの桁数と文字毎の種類を設定
します。

バーコードエラー名称とバーコード無しエラー名称
バーコードエラーとバーコード無しエラーの場合に
これらを判断するための名称を設定します。
この名称は出力ファイル名、バーコード情報ファイル、
サブフォルダ名に使用されます。



ノイズの除去

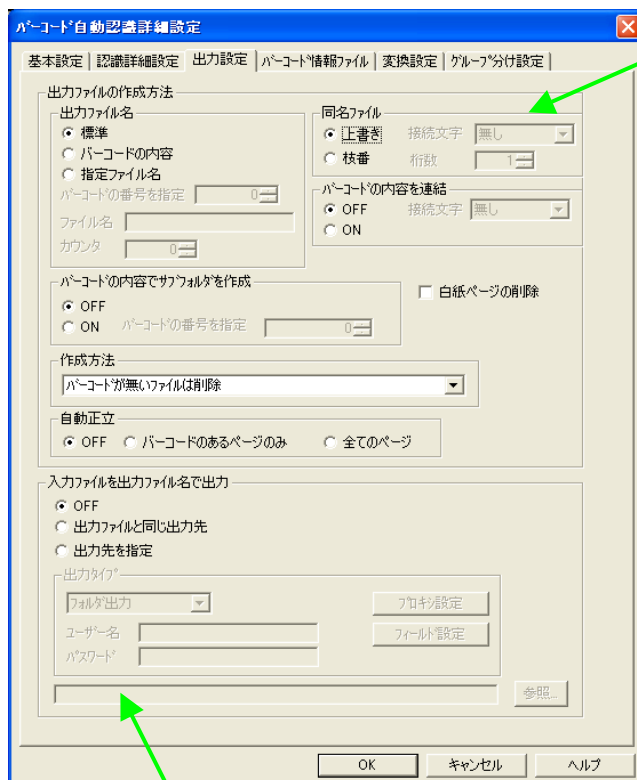
用紙をスキャンした場合などに発生する粒子状のノイズを除去するかどうかを設定します。

鮮鋭化処理

カラー画像のエッジがぼやけてバーコードが認識できない画像に対して鮮鋭化処理を行うかどうかを設定します。

CODE39, ITF, NW-7, QR の設定

CODE39, ITF, NW-7, QR 個別の設定を行います。



出力ファイル名

出力ファイル名をバーコードの内容、指定ファイル名にするかどうかを設定します。

同名ファイル

出力先フォルダに同名のファイルが既に存在する場合に同名ファイルを上書きするか枝番を付けて上書きしないようにするかを設定します。

バーコードの内容を連結

出力ファイル名にバーコードの内容を使用する場合に同一ページに複数のバーコードがあれば連結して使用するかどうかを設定します。

バーコードの内容でサブフォルダを作成

出力先にバーコードの内容でサブフォルダを作成して出力するかどうかを設定します。

作成方法

出力ファイルの作成方法を設定します。設定内容はバーコードの無いファイルの削除、バーコードのあるページの削除、バーコードのあるページで分割を設定します。

自動正立

バーコードの向きに合わせて自動回転するかどうかを設定します。

白紙ページの削除

白紙ページを削除するかどうかを設定します。

入力ファイルを出力ファイル名で出力

変換元のファイルもファイル名を出力ファイル名と同じ内容に変更して出力するかどうかを設定します。

データ変換プログラムを使用してラスターファイルまたは DocuWorks に変換してそれをバーコード自動認識している場合に有効です。

出力先をデータタイプパラメータ設定ダイアログで指定した出力先に出力するかフォルダ出力か SharePoint 出力か WebDAV 出力かを選択することができます。

バーコード自動認識詳細設定

基本設定 | 認識詳細設定 | 出力設定 | **バーコード情報ファイル** | 変換設定 | グループ分け設定

個別ファイル出力

OFF

出力ファイルと同じ出力先

出力先を指定

出力タイプ: フォルダ出力

ユーザー名: _____

パスワード: _____

参照...

共通ファイル出力

OFF

出力ファイルと同じ出力先

出力先を指定

出力タイプ: フォルダ出力

ユーザー名: _____

パスワード: _____

参照...

バーコード情報出力項目

出力しない項目

出力する項目

処理日時
処理ファイル名
出力ファイル名
種別
ページ内の順番
文字数
バーコードの内容
位置(x/y)
種類
向き
ページ数

追加+
<削除
上に移動
下に移動

バーコードの内容を別ファイルに出力
 ファイル名、バーコードの内容を[]で囲む
 ファイル名をフルパスにする
 バーコードエラーとバーコード無しを反映する
 処理日時をYYYY/MM/DD HHMMSS形式にする

OK キャンセル ヘルプ

個別ファイル出力

バーコード自動認識を行ったファイル毎に別々の CSV ファイルを作成します。バーコードのあるページで分割した場合も別々の CSV ファイルを作成します。出力先をデータタイプパラメータ設定ダイアログで指定した出力先に出力するかフォルダ出力か SharePoint 出力か WebDAV 出力かを選択することができます。

共通ファイル出力

指定された CSV ファイルにバーコード自動認識の結果を追記します。出力先をデータタイプパラメータ設定ダイアログで指定した出力先に出力するかフォルダ出力か SharePoint 出力か WebDAV 出力かを選択することができます。

バーコード情報出力項目

バーコード情報ファイルに記述する項目を選択します。

バーコード自動認識詳細設定

基本設定 | 認識詳細設定 | 出力設定 | **変換設定** | グループ分け設定

バーコード自動認識後の変換オプション

変換結果ファイルの拡張子

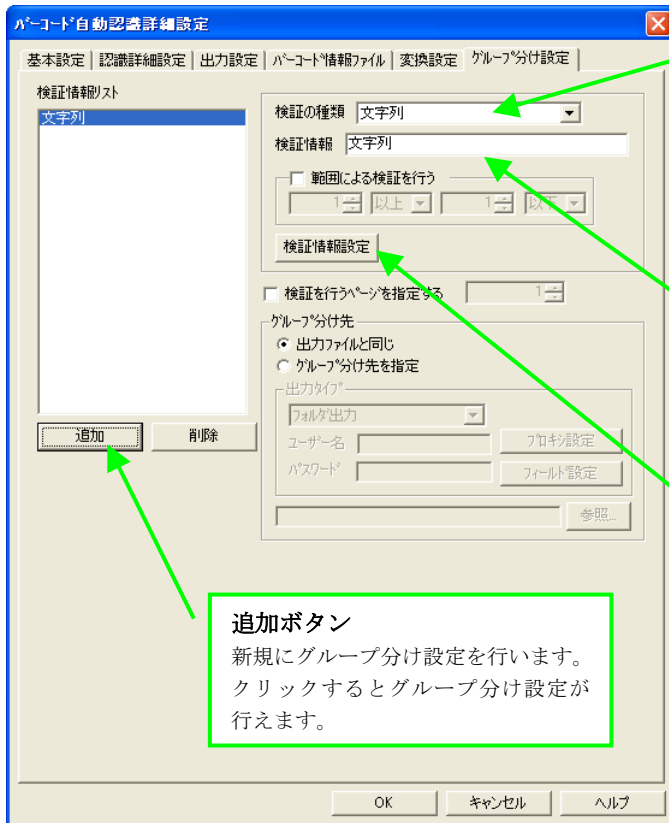
OK キャンセル ヘルプ

バーコード自動認識後の変換オプション

バーコード自動認識後にラスターファイルまたは DocuWorks ファイルを別フォーマットに変換するなど加工する場合の変換オプションを設定します。

変換結果ファイルの拡張子

バーコード自動認識後の変換により作成されるファイルの拡張子を設定します。



検証の種類

グループ分けをする種類を設定します。種類には任意の文字列、バーコードの種類、バーコード無し、バーコードエラーがあります。クリックすると種類の一覧が表示されますので種類を選択します。

検証情報

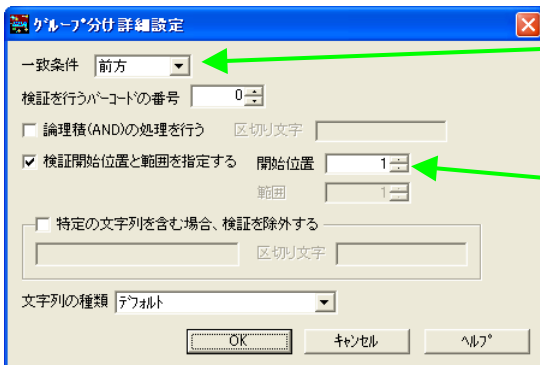
検証する種類が「文字列」の場合に設定が可能となります。設定された文字列を含むバーコードの内容を持つデータをグループ分けします。

検証情報設定ボタン

検証する種類が「文字列」の場合に設定が可能となります。検証情報の詳細設定を行います。クリックするとグループ分け詳細設定ダイアログが表示されます。

追加ボタン

新規にグループ分け設定を行います。クリックするとグループ分け設定が行えます。



一致条件

検証文字列をバーコードのどの位置から比較を行うかを設定します。

検証開始位置と範囲を指定する

検証文字列をバーコードの何文字目から何文字目までと比較するかを設定します。

【注意する点】

- ・ SharePoint への出力を行う場合、以下の製品で動作確認が取れています。
 - Windows SharePoint Services 3.0
 - Microsoft Office SharePoint Server 2007
- ・ WebDAV サーバへ出力を行う場合、以下の製品で動作確認が取れています。
 - IIS 6.0 または 7.0
 - Apache 2.0
- ・ DTP ファイル（WORD, EXCEL, PDF など）を変換するように設定している場合は下記の制限が発生します。

Windows の OS を長時間（数ヶ月単位）再起動せずに使用すると環境により Windows の動作が不安定になる場合があります。これは、弊社アプリケーションのみの問題ではなく、Windows を含む、利用される全てのソフト・ドライバの複合要因であり発生した場合、原因の特定及び回避は全てのアプリケーションが関係している関係で、現状では不可能です。

長期間連続運用を行う場合、上記の問題が発生する事がありますので定期的な Windows の再起動を奨励いたします。
- ・ キャラクタ構成が規格に準拠していないバーコードは検出できません。
- ・ イメージに含まれるバーコードに似たパターンを、短いバーコードとして検出してしまうことがあります。このような現象の多くは、検出するバーコードの種別を制限したり、検出する情報の桁数の範囲を指定することにより回避できます。
- ・ 二次元コードの場合は無関係な画像パターンの一部をエラーとして誤検出する可能性があります。一次元についてもエラーデータとして誤検出する傾向があります。
- ・ 少し斜めになっているバーコードでも認識することは可能ですが、斜め 45 度など大きく傾いているものは認識できません。
- ・ バーコードにはクワイエットゾーン（周囲に設ける空白の領域）が必要です。特に一次元バーコードの左右に十分なクワイエットゾーンが無い場合は認識することができません。
- ・ 写真などの網点や図のハッチング部分をバーコードと誤認することがあります。このような誤認識を防ぐにはノイズ除去設定の「1 ピクセル以上のノイズ除去」に網点などのピッチよりも大きい値を指定して下さい。
- ・ バーコード読み取り領域内に複数のバーコードがある場合は最初に見つかったバーコードの内容が有効になります。
- ・ バーコードの内容に制御文字や各 OS のファイル名として使用できない記号がある場合は、これらの文字は[#]に置き換えられます。

例：バーコードの内容が[ABC<DEF]だった場合、[<]はファイル名として使用できないので[#]に置き換えられ[ABC#DEF]というファイル名で出力されます。
- ・ バーコードの内容が長すぎてファイル名の長さの上限を超える場合は、上限を超えないようにバーコードの内容をカットしたものがファイル名となります。
- ・ JAN コードには次の制限があります。
 - (1) チェックデジットの部分もデータとして出力されます。
 - (2) EAN コードもバーコード種別上は JAN となります。
 - (3) UPC-A は、先頭に[0]が付加された 13 桁の EAN コードとして認識できます。UPC-E は認識できません。
 - (4) 解像度が適切でない場合、間違った内容のデータが検出される場合があります。

- ・ CODE128 には次の制限があります。
 - (1) 自動認識するバーコードのタイプとして GS1-128 (UCC/EAN128) が選択されていて、スタートキャラクターの次に FNC1 のある CODE128 のバーコードを検出した場合、それを GS1-128 (UCC/EAN128) と認識し、以下の処理を行います。
 - ① スタートキャラクターの次の FNC1 は削除
 - ② 2 個目以降の FNC1 は GS 文字 (ASCII コード 29) に置換。
 - ③ FNC2~FNC4 は削除
 上の条件に当てはまらない場合、CODE128 に含まれる FNC1~FNC4 は全て無視されます。
- ・ ITF には次の制限があります。
 - (1) 解像度が適切でない場合、間違った内容のデータが検出される場合があります。
- ・ NW-7 には次の制限があります。
 - (1) 解像度が適切でない場合、間違った内容のデータが検出される場合があります。
 - (2) キャラクタ間のギャップが大きすぎると正しく認識されない場合があります。
- ・ GS1 DataBar (RSS) には次の制限があります。
 - (1) チェックデジット、アプリケーション識別子の部分もデータとして出力されます。
 - (2) イメージに含まれるバーコードに似たパターンが極端に多い場合、バーコードが正しく認識されない場合があります。
- ・ QR コードには次の制限があります。
 - (1) モデル 1 には対応していません。
 - (2) 漢字などの複数バイト文字はシフト JIS でエンコードされているものとします。
 - (3) 明暗反転および裏表反転には対応していません。
- ・ PDF417 には次の制限があります。
 - (1) マクロ PDF417 には対応していません。
 - (2) 漢字などの複数バイト文字はシフト JIS でエンコードされているものとします。
- ・ GS1 合成シンボルには次の制限があります。
 - (1) UPC-E をリニアコンポーネントとするシンボルは認識できません。
- ・ DocuWorks ファイルをバーコード自動認識する場合は次の制限があります。
 - (1) Windows 版のみ可能です。
 - (2) FUJII XEROX 社製品の DocuWorks4.1 以降がインストールされている必要があります。
 - (3) セキュリティの掛かっている DocuWorks ファイルをバーコード自動認識することはできません。
 - (4) アプリケーションから作成した DocuWorks ファイルの場合は DocuWorks 用紙のサイズでラスタ変換され、バーコード自動認識を行います。
- ・ KDraster Convert, KDocad Convert, KDprint Convert を使用して変換する場合、一部のオプションは使用できなくなります。使用できなくなるオプションはファイルをまとめて処理するようなオプションで、-BATCH, -MERGE 等です。

【自動起動】

1. スタートアップに登録することでログイン後に自動起動することができます。
2. サービスに登録することでマシン起動後、ログオフ状態で自動起動することができます。
(DTP ファイル (WORD, EXCEL, PDF など) を変換するような場合には使用できません)
3. サービス登録以外の方法でログオフ状態の自動起動には対応していません。

【対応マシン】

- ・ Windows2000, WindowsXP, Windows Server 2003

【価格】

KDauto_trans(バーコード自動認識版) for SharePoint : 70 万円(税抜き)

※KDraster Convert、KDcad Convert、KDprint Convert, KDprintout for driver は別途購入が必要です。